

新南牧村教育大綱が制定されました

【めざす子どもの姿】

- 自分も相手も大切にできる子
- 想像力を働かせ、自分で考えて判断できる子
- 南牧村を愛する子
- チャレンジする勇気が持てる子

☆地域みんなで
子どもを育てる
«大人も学ぶ
共学び・共育ち»の村

(1) 子どもを育む

- 1 少人数であることを生かした、9年間の連続した学びの構築
- 2 新しい学びを支える安全で快適な教育環境の再編と整備
- 3 地域全体で子供の成長を支えるために、信州型コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を再構築し、地域に開かれた学校を目指す。
- 4 個性の伸長と、学力、情操、創造力、体力のバランスの取れた児童生徒の育成
- 5 郷土への愛着と誇りを育む「ふるさと学習」の推進
- 6 ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る
- 7 他地域等との交流学習や実体験による多様な学びの推進

(2) 地域を育む

- 1 自分らしく生き生きと暮らしていくための、生涯を通じて学びあえる環境の整備
- 2 子どもから大人まで、体力などの向上を図るためにスポーツ活動の推進
- 3 地域学習を通して、地域の連帯意識の向上を図る。
- 4 豊かな自然環境の保全並びに地域の歴史・伝統・文化財の継承および保存と活用
- 5 様々な人とのふれあい、交流活動の場の創生

これから時代を生きていく子どもが、大人になったときに自分らしく生きられるようになるためには、義務教育の9年間が大変重要です。学校と家庭と地域と行政と一緒に村の子どもを育てる環境を作っていくたいと考えています。

南牧村の新しい学校の在り方に関する基本方針（案）

新たな南牧村の学校の在り方

今まで取り組んできた小中連携をさらに前進させ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、個々の児童生徒に寄り添う教育を具現化するため、現在の2つの小学校と中学校を一つにした義務教育9年間を一貫した教育目標の下で行われる「義務教育学校」に段階的に移行

◆義務教育学校設置の意義

◎南牧村のめざす「大人も学ぶ 共学び・共育ち」の村を実現するためには、地域の方とともに村の宝である子どもたちを「みんなの手で育てる」意識を醸成しながら、これまでの取り組みを前進させ、義務教育期間全体を一貫した教育目標のもとで行われる「義務教育学校」を創設し、教育大綱で掲げた子どもの姿を目指します。

- ・小小連携・小中連携・地域連携の取り組みで成果を上げている中、今後の児童・生徒数の推移や時代の変化に伴い、小中の連携をさらに進めていく必要があります。義務教育学校は、全ての教職員が義務教育9年間に責任を持って教育活動を行う小中一貫教育の取組を継続的・安定的に実施できる仕組みになっています。
- ・子どもは人と関わることで多くのことを学びます。世代間の交流促進や村民みんなで子どもの教育に関わる体制の強化も不可欠です。施設を一つにすることで、子どもの関わる体制を集約化できます。
- ・義務教育学校にすることで、校長を一人としてすることで、責任体制を明確化し意思決定・意識統一の円滑化が期待できます。また、今まで、小中それぞれで行なっているカリキュラムや各種計画などの事務が効率化を図ることができます。

◆学校を核としたコミュニティー・スクール構想

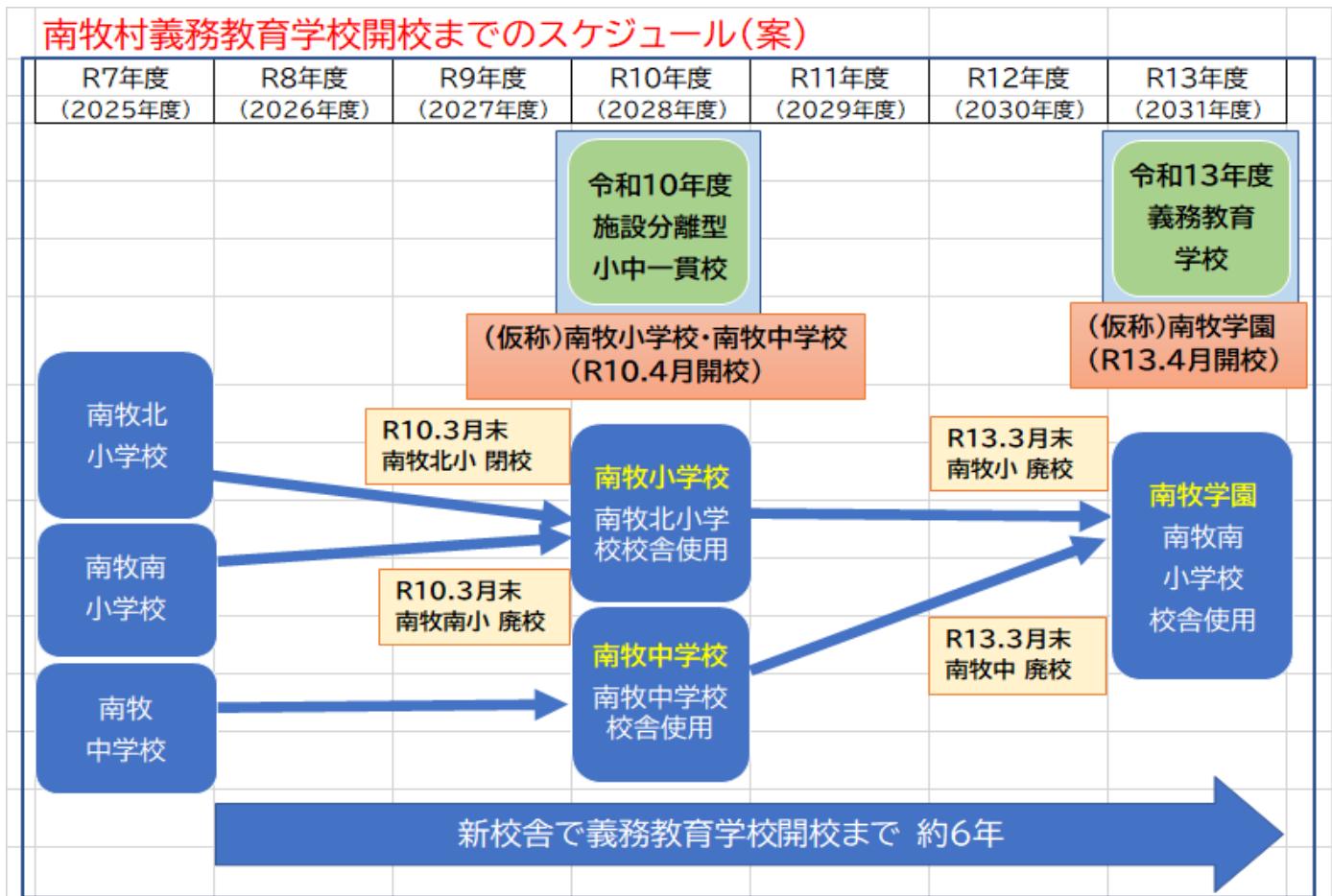
- ・コミュニティー・スクールは、学校と地域をつなぐ仕組みですし、義務教育学校は、小・中学校の児童生徒間、教職員間をつなぐ取組であり、いずれも児童生徒に多様な者との関わりを持たせたいという願いが共通にあります。各学校で取り組んできたコミュニティー・スクールを再構成し、地域の方が、学校活動に積極的に参画できるように働きかけるとともに、これまで築いてきた地域の方との関係を生かし、地域とともにある学校づくりを進めます。
- ・義務教育学校の導入にあたっては、保護者や地域住民の声を丁寧に聴き、共に新しい学校づくりを行うという姿勢が大切であり、地域住民等とビジョン・目標を共有し、地域一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」への転換を図っていきます。

◆設置場所と開校予定

- ・南牧村立義務教育学校（仮称）の建設予定地は、現在の南牧南小学校の学校用地を活用することを軸に進めていきます。
- ・開校予定は、「令和13年4月1日」の予定です。
- ・児童生徒数は、前期課程（6年間）92名、後期課程（3年間）73名の計165名、学級数については、各学年1クラスの9学級と特別支援学級を予定しています。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	前期	7年	8年	9年	後期	計
男子	7	8	8	6	10	11	50	11	13	11	35	85
女子	3	10	6	6	8	9	42	11	17	10	38	80
計	10	18	14	12	18	20	92	22	30	21	73	165

◆義務教育学校開校までのスケジュール



- ①新しい学校建設にかかる時間≠統合にかかる時間にしない
- ②小小統合を先にすすめ、同時にあたらしい学校建設の計画に順次着手し、最短で新しい学校開設を目指す
- ③小小統合にかかる準備時間約2年

◆今後検討していくこと

(1) 新たな学校の検討体制

- ・新たな学校づくりプロジェクト（仮称）を立ち上げ、教育委員会を中心に児童・生徒、保護者、教職員、住民、有識者、役場等の関係者が、それぞれの立場で参画していただきます。

(2) 新たな学校づくりプロジェクトを中心に、新たな学校の概要（基本構想）を作っていきます。

- ・新たな学校の形態・規模
- ・新たな学校の教育（コンセプト・教育内容 等）
- ・新たな学校の教育を支える仕組み（指導・支援体制）
- 学校と地域をつなぐ仕組み（コミュニティー・スクール）

(3) 新たな学校施設の整備方針（基本計画）

- ・建設予定地の使い方に関する方向性
- ・学校施設の基本的な考え方
- ・学校施設の規模と教室のつくりの方向性
- ・学校施設の予算規模
- ・整備スケジュール